



# 土壌分析を 活用しましょう！

【指導員】 園芸果樹課 小松 将

夏秋野菜の収穫もほぼ終わり、肥料予約注文書など来年に向けての圃場準備や作付予定などを考えている方もいらっしゃるのではないのでしょうか。今回は土壌分析の結果を来年の栽培に生かすための活用方法を紹介いたしますので参考にしてみてください。

## 【土壌分析とは】

土壌分析は、作物を栽培するために必要な養分が土の中にどのくらい入っているかを調べる土壌の健康診断です。診断結果は土壌を栽培に適した環境にするにはどうしたら良いのかなど改善点を探す参考資料になります。今回は土壌診断結果に書かれてある指標の中で、pHとECを取り上げて紹介します。



## 【pHとは】

土壌の酸性やアルカリ性を示す指標です。0～14の数字で表され、7で中性、7より小さいと酸性、7より大きいとアルカリ性を表します。農作物の栽培に適したpHは作物によって異なりますがおおよそ5.5～6.5に設定されています。

## 【ECとは】

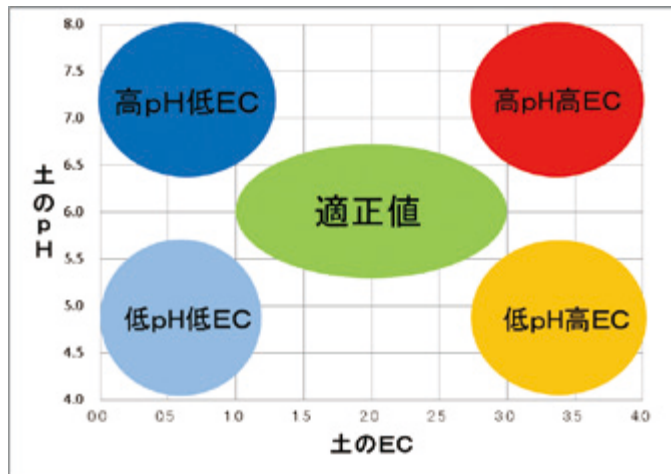
土壌においてECという指標は肥料がどれだけ入っているかを見る指標です。ECの数値が高ければ高いほど土の中に残っている肥料（主に窒素）が多いということが言えます。ECの適正值は野菜では0.3ms/cm以下、果樹では0.2ms/cm以下が望ましいとされています。

## 【pHとECから見る施肥の配分について】

2種類の指標を参考にすることだけでも来年の施肥分量の目安を決めることができます。pHとECが適正值にあるという方はこれまでの施肥で問題ありません。pHとECのバランスが崩れているという場合は施肥の配分について考える必要があります。

## 【高pH・高ECの場合】

肥料や石灰資材を与え過ぎ



ている圃場です。かわい子には手を貸してあげたくなくなる気持ちはわかりますが、甘やかし過ぎてはいけません。栄養の取り過ぎは植物でも悪影響を及ぼします。このような圃場は来年の石灰資材や肥料を減らします。ハウスの場合、冬期間中、屋根を外して雪で肥料分を流す方法もあります。

## 【高pH・低ECの場合】

石灰資材などの量に対して肥料が少ない圃場です。硫酸

系肥料を使いながら堆肥などを投入し、土の状態を改善しながら肥料の配分を決めていきましょう。

## 【低pH・高ECの場合】

酸性に傾いているが肥料が多く残っている圃場です。石灰資材を投入し、pHを適正值にしなが肥料は少なめにし、水を多めにやるなどして肥料成分の調整を行っていきましょう。

## 【低pH・低ECの場合】

肥料も石灰資材もあまり投入していないや粗放的な圃場です。植物は手をかけた分応えてくれるので、まずは石灰資材や肥料を与えるところから始めてみましょう。



JAでは、健全な土づくりの推進と適切な施肥管理を通して、土壌の健全化を図るとともに、低コスト生産をサポートしています。お気軽にご相談ください。